

小学校教科等研修講座(道徳)

教科等指導員 天神川小学校 主幹教諭 川端 弘子

担当指導主事：水津 和雅

キーワード：小中連携 道徳の教科化 授業展開 教材の工夫 規範意識を育てるスキル型授業

1 実施概要

| 実施月日 | 講師等 | 場所・形態 | 演題（またはテーマ） |
|----------|--------------------------|--------------------------------|-------------------------------|
| 2月21日（火） | 天神川小学校 川端 弘子 主幹 教諭 | 総合教育センター 3階会議室・模擬授 業及び演習 | 『自分の生活に活かす』道徳授業 作りと教材提示の工夫 |

2 主な内容

(1) 模擬授業「はしのうえのおおかみ」「たびに出て」（第1学年）

- ① 子どもの実態に応じた授業内容、授業展開を考える。
- ② 望ましいと思われることを言わせたり、書かせたりすることに終始しないように、発問を工夫する。（中心発問と、中心発問へ導くための発問）
- ③ 指導の一部を地域や実態に応じた身近な資料等に組み替えてみることもできる。
- ④ 「考え、議論する」道徳にむけて、子どもたちにどのように考えさせるのかを十分に検討する。
- ⑤ ワークシートを活用し、その1時間での学びを蓄積できるように工夫し、評価につなげるようにする。



(2) 演習「自分の生活に活かす」道徳授業作りと教材提示

- ① 低学年の道徳授業のポイント「わたしたちの道徳1. 2年編」 B礼儀一（8）
ア 日常の道徳性の指導・・・基本的な生活習慣や善悪の判断、きまりを守る等のことを教える。
→スキルを教える。
イ 感性に働きかける指導・・・正しい行いをしてみ、実際に気持ちを感じ取らせる。
→ロールプレイなどを通じて考えさせる。
- ② 興味や問題意識を持つことができるような身近な社会的課題を取り上げ、討論や対話的な交流を通して多様な意見を受け止め、認めあえる学級の雰囲気をもとに授業作りをする。

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 道徳授業は、日頃の学級作りと自由な発言のできる授業作りが必要となる。1年間の見通しを立て、スキル型の授業で定着させることも一つの方法である。効果的な教材の提示方法を実際に比較することで多様な考え方を共有することができた。
- ② 道徳の授業の中に必ず「自分に立ち返る時間」を設けることで、具体的な行動を自分の言葉で発言できる「小さな達成感」や「小さな参加意識」を積み重ねていく指導方法を、参加者が体験することができた。
- ③ 道徳的行為に関する体験的な学習「いじめについて考える」の提案では、教材文を読んで話し合う中で、「読んでどう思いましたか。」「どうすれば解決できると思いますか。」等、ロールプレイを取り入れながら、自分たちのクラスに置き換えて考えた。考えた解決策を全体で確認し合うことで、いじめ問題にも対応する能力を養える授業にについて研修を深められた。

(2) 課題

- ① 「自分に立ち返る時間」を設けることを意識した授業実践を積み重ね、道徳の授業の幅を広げていく必要がある。また、その実践については、事後協議等を行い、何度も使用できる指導案として、情報共有していく必要がある。
- ② 共感や感動をした（心情）、深く考えた（判断力）、自分の考え方が変化した（意欲）、自分が考えたことを大切にしたいと思った（関心・意欲）、教材が心に響いた（教材に対する評価）を、5段階評価する等、評価方法を検討していく必要がある。